

1.キッチン全体の取付・設置について

- 搬入・搬送は必ず手運びをお願いします。
- 重量がある為、荷受および搬入の準備をお願いします。※車上渡しとなります。
- 据付調整時には必ず軍手を着用してください。
- ステンレス製シンクを取り扱う時は、必ず保護手袋をしてください。
- 取付・設置完了後は、扉のがたつきや丁番のゆるみのないことを必ず確認し、取付後も定期的に点検のうえ、必要に応じてネジを締め直してください。
- 組み込まれる機器・水栓などについては、それぞれの取付・設置説明書及び製品本体の表示事項を守り正しく設置してください。
- 防臭キャップ・排水器具・排水ホースの取付け及び給排水管の接続部分のシールは確実に行ってください。
- 取付・設置に使われる溶剤・その他薬品類は、それぞれの注意表示にしたがって、正しく使ってください。

準備

1. 搬入経路を確保。
2. 据付位置の床レベルが出ているか確認。
3. 壁固定位置の強度が十分であるかを確認。
4. 設備寸法は図面通りか確認してください。

取付

5. 吊戸・レンジフードを取付けてください。「3」「4」参照
※レンジフードは機器メーカーの「設置工事説明書」参照
6. 背面もしくは底面にルーターまたはホルソーで配管・配線用の穴を開けます。「キッチン図面」参照
7. キッチン本体を付属ビスで壁面に固定してください。「2」参照
8. 水栓を天板に取り付けてください。※機器メーカーの「設置工事説明書」参照。
9. 水栓以外の設備機器を取り付けてください。※機器メーカーの「設置工事説明書」参照。
10. 扉の調整「7」参照

配管

11. 給排水の接続。
12. ガス(電気)の接続。

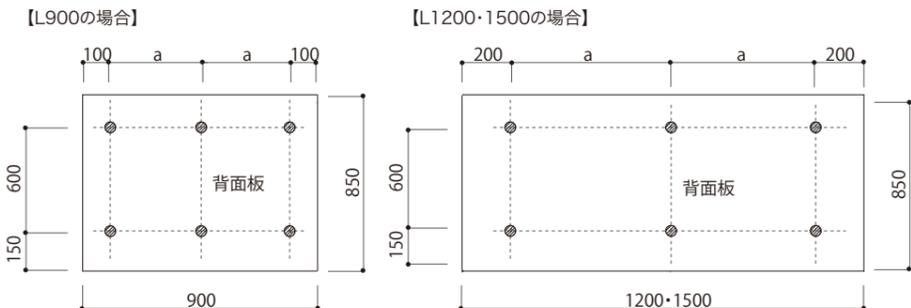
- 荷受時は配送者立会いで、数量・外観(必要に応じて開梱)検査をお願いいたします。異常があった場合は、速やかに代替対応をいたします。荷受時の翌日以降からは、代替品は有償となる事がありますので、当日中の連絡をお願いいたします。
 - 電気工事・管工事は関連する法令・規程に従って必ず「有資格者」が行ってください。
 - 取付・設置後は必ず養生してください。
- 排水ホースは、U字に曲げたり、折り曲げて取付けないでください。
 - 絶対に分解したり、修理・改造したりしないでください。

2.キッチン本体の壁固定位置

キッチン本体の壁固定位置は下図の通りとなります。下地に問題が無い事をご確認のうえ、正しい位置に付属の木ねじで固定してください。

- キッチン本体の壁取付用付属品
- ・血木ねじ L50mm 6本
- ・ワッシャ 6個
- ・キャップ 6個

●壁固定ビス位置



- 必ずキリ等で、下穴をあけてからビス固定をしてください。
- この固定位置はあくまでも参考位置です。不都合がある場合は任意の位置に動かしてください。

3.吊戸棚の取付・設置について

準備

1. 搬入経路を確保。
2. 据付位置の壁下地の桹木は厚さ45mm以上、幅100mm以上必要です。(合板の厚さは12mm以上あれば取付可能です)「6」参照
3. 設備位置は図面通りか確認してください。

取付

4. 吊戸棚本体を付属ねじで壁面に固定してください。「4」「6」参照
5. 吊戸棚の連結がある場合は前面を合わせて付属ねじで固定してください。「6」参照
※必ずキリ等で下穴を開けてからねじ固定してください。
6. 棚下灯を取付ける場合はキャビネット底面に電源コード配線用の穴を開けます。「5」参照
7. 扉の調整「7」参照

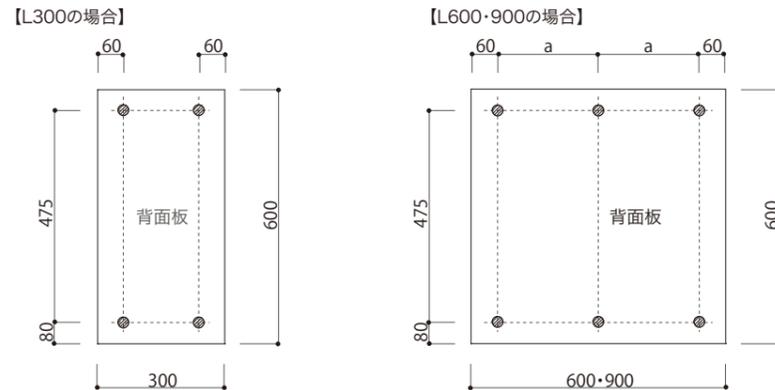
- 取付・施工後は必ず養生してください。
- キズやカケのクレームに関しましては、納品後3日以内にお知らせください。
- 据付位置の壁の仕様を確認し、必要な場合は補強してください。
- 電気工事・管工事は関連する法令・規程に従って必ず「有資格者」が行ってください。

4.吊戸棚壁固定位置

吊戸棚の壁固定位置は下図の通りとなります。下地に問題が無い事をご確認のうえ、正しい位置に付属の木ねじで固定してください。

- 吊戸棚壁取付用付属品
- ・血木ねじ L50mm 6本
- ・ワッシャ 6個
- ・キャップ 6個

●壁固定ビス位置



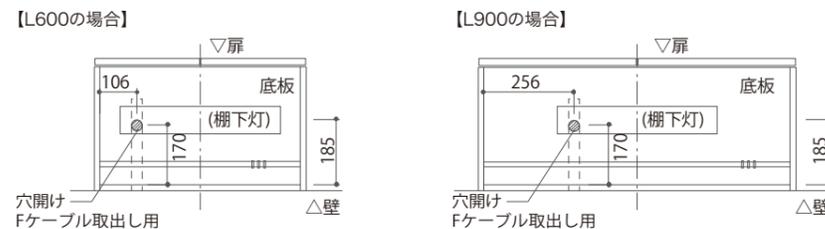
- 必ずキリ等で、下穴をあけてからビス固定をしてください。
- この固定位置はあくまでも参考位置です。不都合がある場合は任意の位置に動かしてください。

5.棚下灯取付位置

吊戸棚底板の断面にFケーブル通線用の長穴が開いています。下図の通り底板に穴を開けて棚下灯を取付けてください。底板を貫通しないよう、ご注意ください。

※L300の吊戸棚には取付不可となります。

●吊戸底板穴開け位置

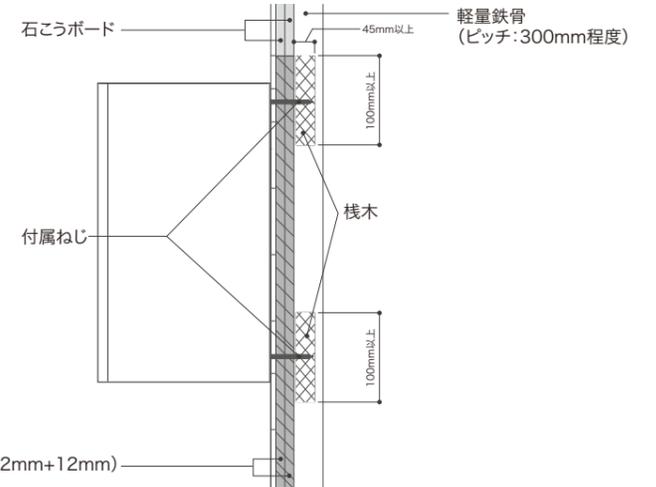


- 照明器具に関するお取り扱い、個々メーカーの取扱説明書をご確認下さい。

6.壁の補強方法について

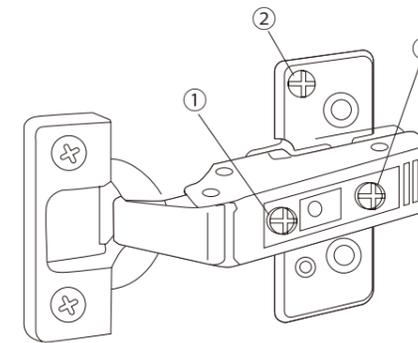
吊戸棚本体の荷重は壁で支えています。取り付ける壁の仕様に合わせて事前に補強を入れてください。

●木造壁、軽量鉄骨壁の補強例



7.扉の調整方法

扉は調整した状態で出荷していますが、輸送中の振動等によりずれる場合がございます。また、使用しているうちにずれる場合があるので、必要に応じて①②③のネジを回し、調整してください。調整後は②③のねじを閉めます。



- ①左右調整用
- ②上下調整用
- ③前後調整用

- 左右調整の場合
…①のネジを回す。
- 前後調整の場合
…③のネジを回す。
- 上下調整の場合
…②のネジを緩めて調整。
- ガタツキ調整の場合
…②③のネジを締める。

8.加熱機器

コンロ側周囲の壁が可燃の場合、防熱板を使用してください。加熱機器の設置説明書内容に従ってください。